

開催レポート

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発信と発掘」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。この趣旨に基づき、各団体開催の協力や後援も行っています。

『そうだ文楽に行こう!! ワンコイン文楽』(2022年11月、2023年1月/国立文楽劇場)

アートサポート関西「コクヨ文楽支援寄金」助成 ◆主催:公益財団法人 文楽協会

コクヨ株式会社の支援で第4期を開催

国立文楽劇場での公演を関西在住の15~35歳の人であれば誰でもワンコイン(500円)で鑑賞できる「ワンコイン文楽」。この企画は、大阪発祥のユネスコ無形文化遺産「人形浄瑠璃文楽」を若い人たちに楽しんでもらい、その伝統を受け継いでもらいたいとの思いから、アートサポート関西が2014年に「京阪神ビルディング文楽支援寄金」を設けてスタートしました。以来、岩谷産業株式会社(2016~2017年)、丸一鋼管株式会社(2018~2019年)へと支援が引き継がれ、延べ3,000名を超える若者が文楽公演を体験。コロナ禍による中断を経て、今回はコクヨ株式会社(2022年~2023年)の支援寄金により、3年ぶりに第4期が開催されました。



アートサポート関西「コクヨ文楽支援寄金」の目録を手渡す黒田章裕コクヨ株式会社社長(左から3人目)(2022年10月17日国立文楽劇場「ワンコイン文楽2022」記者発表にて)

2022年10月に行われた記者発表で、『勸進帳』の弁慶(人形遣い・吉田玉助さん)に助成金目録を手渡したコクヨの黒田章裕会長は、「日頃から豊竹咲太夫さんと親交があり、講演にお招きしたり、文化芸術について語り合ったりする機会をいただいている。寄金設立にあたり、改めて東京の国立劇場で文楽を鑑賞し、さらに親しみを感じた。若い人たちの鑑賞機会を増やす企画に参加させていただき感謝している」と語りました。また、竹本織太夫さん(写真右端)は「ワンコイン文楽のお客さまはほとんどが女性。文楽ファンになった女子学生が大道具のインターンになり、文楽の舞台スタッフの仕事に就いた例もある。未来のお客さまだけでなく、技芸員を育てる種まきにもなる」と期待しました。

関西・大阪21世紀協会の崎元利樹理事長は、参加者からの「初めて鑑賞して面白かった」「また観に来たい」という感想を紹介し、「今後も文楽の裾野をどんどん広げていくことに貢献したい」と述べました。

ワンコイン文楽では、観劇前に技芸員が文楽人形の仕組みや見どころを解説する事前レクチャーもあり、参加者から「文楽への興味が一層深まった」と好評です。今年1月10日には、大阪、京都、兵庫、奈良の各地から、18~

35歳まで大学生15名を含む24名が参加。人形遣いの桐竹勘十郎さんが、人形を主遣い、左遣い、足遣いの3人で遣うようになった経緯や、3人の息の合わせ方、首や手足の動かし方などを説明しました。

その後、参加者は初春文楽公演『傾城恋飛脚 新口村の段』『壇浦兜軍記 阿古屋琴貴の段』を鑑賞。「人間国宝の桐竹勘十郎さんから直々にレクチャーしてもらえるとは思わなかった」「事前に観るポイントを教えていただいで、より楽しむことができた」「500円で観られるお徳さにびっくり」などの感想が寄せられました。



桐竹勘十郎さんが『艶容女舞衣(はさすがおんなまいぎぬ)』のお園(その)人形を用いて動かし方を解説(事前レクチャーにて)



『壇浦兜軍記 阿古屋琴貴の段』の一幕



平景清(たいらのかげきよ)の潜伏先を探るため、源氏方で景清を憎む岩永左衛門(いわながさえもん)を抑え、秩父庄司重忠(ちちぶのしょうじしげただ)が阿古屋を情と理で責める。重忠は阿古屋に琴、三味線、胡弓を演奏させ、その音色の乱れから景清の行方を知っているか探ろうとする。(公演チラシより抜粋)

(写真提供:国立文楽劇場)

第8回上方落語若手噺家グランプリ2022決勝戦 (2022年8月23日／天満天神繁昌亭)

アーツサポート関西「寺田千代乃上方落語若手噺家支援寄金」助成

◆主催：公益社団法人 上方落語協会

笑福亭生寿さんがグランプリを獲得

アーツサポート関西が2015年から毎年支援している上方若手噺家の登竜門「上方落語若手噺家グランプリ」。第8回となる今回は、入門4年目から18年目の40名がエントリーし、予選を勝ち抜いた8名(桂そうばさん、笑福亭生寿さん、露の紫さん、月亭大遊さん、桂二葉さん、桂三実さん、笑福亭智丸さん、桂りょうばさん)で決勝戦が行われました。超満員の天満天神繁昌亭(大阪市北区)で、同世代の噺家の頂点を目指して熱演の結果、入門15年目の笑福亭生寿さんがグランプリ(優勝)に輝きました。審査は在阪のテレビ・ラジオ局のプロデューサーらが務めました。

生寿さんは1983年奈良県出身で、2007年に笑福亭生喬さんに入門。宝塚歌劇の大ファンで、古典落語の『天王寺詣り』や『蔵丁稚』などの演目をタカラヅカ仕立てで演じることができます。決勝戦の演目は古典『秋刀魚芝居』。晩飯に秋刀魚をたらふく食べて芝居見物に行った男二人が、花火を切らして仕方なく秋刀魚を焼く煙で登場させられた幽霊役を野次る滑稽話で、芸の深さと完成度が高く評価されました。生寿さんは受賞後のインタビューで、「上方落語は江戸に負けない独特の面白さがある。その魅力

をもっとアピールしていきたい」と語り、観客席から大きな拍手が送られました。一方、2年連続で準優勝となった桂二葉さん(2011年入門)は、古典『がまの油』を口演。新作落語の勢いが強い中、古典落語の魅力をあらためて浮かび上がらせる形となりました。

毎年、決勝戦のチケットは売り出されるとすぐに完売します。この舞台にかける出場者の熱量と鍛錬は相当なもので、今回の決勝戦も、落語ファンの期待を裏切らない素晴らしい熱戦となりました。



左から笑福亭仁智さん(上方落語協会会長)、桂二葉さん、笑福亭生寿さん、寺田千代乃さん(アート引越センター株式会社名誉会長)
(2022年8月23日・授賞式にて)

日本万国博覧会記念公園シンポジウム2022 (2022年10月29日／国立民族学博物館)

◆主催：国立民族学博物館 ◆共催：大阪府、公益財団法人 千里文化財団

◆協力：公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

人類よ、どこへ行く？ ポストコロナの世界を占う

EXPO'70のレガシーである国立民族学博物館(大阪府吹田市)でシンポジウムが開催されました。全人類が同時に経験した新型コロナウイルス感染症の蔓延。この体験をもとに「分断からの回復」について、精神医療、医療、比較文学比較文化、哲学といった異なる分野の研究者が議論を交わしました。そして、さまざまな分野の人間が対話し、互いを尊重することの重要性が示され、「ポストコロナ」ととどまらない視座の得られたシンポジウムとなりました。



第20回堂島薬師堂節分お水汲み祭り (2023年2月3日／堂島薬師堂)

◆主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

早春の北新地で3年ぶりの賑わい

堂島・北新地に古くから伝わる「節分祭」と北新地の花街に伝わる「節分お化け(仮装)」、そして、大阪・キタの活性化と水都大阪の再生に向け関西経済同友会が提言した「お水汲み祭り」が一つになった「堂島薬師堂節分お水汲み祭り」。第20回となる今年は、新たに「白龍(堂島薬師堂の化身)」が登場し、コロナ禍で中断していた龍の巡行や特設舞台での薬師寺僧侶による声明、北新地芸妓衆の奉納舞、お化けなどが3年ぶりに実施され、疫病退散と商売繁盛を祈願する多くの人で賑わいました。



薬師寺僧侶による鬼の入魂式と沿道で見守る人々(堂島薬師堂にて)

令和4(2022)年度 関西元気文化圏賞 贈呈式 (2023年1月25日/リーガロイヤルホテル大阪)

◆主催: 関西元気文化圏推進協議会

大阪中之島美術館に大賞を贈呈

文化・芸術・スポーツなどの分野で活躍し、関西から日本を元気に明るくした人や団体に、感謝と一層の活躍を期待して贈られる関西元気文化圏賞。第20回となる今回は、2022年2月に開館し11月には早くも50万人の来場者を達成した大阪中之島美術館に大賞が贈られました。また、2025年大阪・関西万博の話題作りに貢献した公式キャラクター「ミャクミャク」/山下浩平さんらに特別賞が贈られました。関西元気文化圏推進協議会の松本正義会長は「万博来場を機に関西のさまざまな魅力に触れていただけるよう、文化芸術・スポーツ・観光の側面から関西を盛り上げていきたい」と語りました。各賞の受賞者は次の通り。

大賞: 大阪中之島美術館、特別賞: 大阪・関西万博公式キャラクター「ミャクミャク」/山下浩平、公益財団法人鷹山保存会、生駒高等学校野球部・天理高等学校硬式野球部、オリックス・バファローズ、ニューパワー賞: 桂二葉(上方噺家)、今村翔吾(小説家・書店経営者)(敬称略)



受賞者と主催者

Arts Support Kansai



こちらから簡単に
寄付ができます



ウィズコロナ時代の芸術・文化支援

HEART & ARTは、ウィズコロナ時代の芸術・文化支援のために寄付を集める取り組みです。お寄せいただいたご寄付は、アーティストや文化団体支援に充てられます。みなさまからのご寄付をお待ちしています。寄付には税の優遇措置が適用されます。

HEART & ARTは公益財団法人関西・大阪21世紀協会が行うアーツサポート関西の取り組みとして行われています。

詳しくはアーツサポート関西ホームページへ ▶ <https://artssupport-kansai.or.jp/>



スマホを使って文化芸術支援にご協力を!

「スマホ」でかんたん
少額からできる

ぽちっ と募金

あなたの想いを
「ぽちっ」と届けよう



2021年3月30日より、株式会社みずほ銀行が提供し、全国90以上の金融機関が参画するスマホ送金・決済アプリ「J-Coin Pay」内で実施している「ぽちっと募金」から、関西・大阪21世紀協会にご寄付いただくことが可能となりました。

当協会は、コロナ禍で経済的な事情を抱える若手アーティストへの支援や活動の場の提供を通じて個と個を結びつけ、さらには個と企業を繋ぎ合わせる取り組みを行っています。こうした取り組みにご賛同いただける方は、「ぽちっと募金」で500円からお気持ちの金額を当協会に寄付していただくことができます。ご寄付は、アーティストへの支援を拡充するための費用として活用させていただきます。

皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

詳しくは関西・大阪21世紀協会ホームページへ
<https://www.osaka21.or.jp>

「ぽちっと募金」とは

J-Coin Pay(店頭での支払い、送金、入出金をスマホで行えるアプリ)を利用して、復興支援や国際協力、医療・福祉、文化・芸術、スポーツ振興などの支援を行う団体に対し、少額から募金できるサービスです。(J-Coin Payについては ▶ <https://j-coin.jp/>)

関西・大阪21世紀協会賛助会員
入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

- 法人会員 1口につき年会費10万円
- 個人会員 1口につき年会費 1万円

特典

1. 協会が発行する刊物の配布
2. 協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3. 賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 総務部 (TEL.06-7507-2001)